

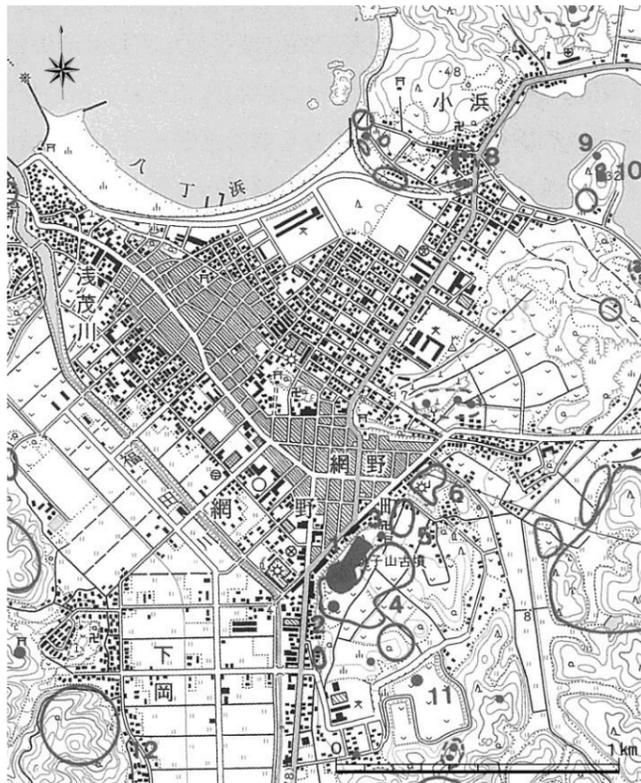
平成30年度 史跡網野銚子山古墳発掘調査現地説明会資料

平成30年10月21日(日)午後1時30分～
京丹後市教育委員会文化財保護課

1 遺跡の概要について

京丹後市網野町に所在する網野銚子山古墳は、日本海側最大の前方後円墳です。この古墳が築かれたと推定される4世紀末～5世紀前半は丹後地方に有力な政治勢力があったという説があり、いわゆる「丹後王国論」を裏付ける遺跡の一つと考えられています。この古墳に葬られていた人物は、少なくとも大和政権と関係を持ち、大陸との交易等にも携わった地域の有力者であると考えられています。

なお、当古墳は大正11年3月8日に国の史跡に指定されています(平成23年9月21日範囲追加指定)。



網野銚子山古墳と周辺の遺跡 (1/25000)

- 1 網野銚子山古墳 2 小銚子古墳
- 3 寛平法皇陵古墳 4 三宅遺跡 5 林遺跡
- 6 大將軍遺跡

2 調査の目的

(1) これまでの経過

市教育委員会では、平成19年から3カ年をかけて、網野銚子山古墳の範囲を確認する発掘調査を実施し、平成23年に史跡の範囲が追加指定されました。

その後、平成24年から、史跡指定地の公有化を進め、市民が歴史・文化と触れ合える学習や憩いの場となるよう、環境整備を進めています。

これに伴い、平成27年から整備計画等に必要となる発掘調査を実施しています。これまでの調査で、次のような遺構が見つかっています。

【後円部側】

- ・下段斜面の基底石* (S60-GAtr, S60-2tr, S60-3tr)
- ・1段目テラスの埴輪列* (S60-3tr, H20-3tr, H20-4tr, H28-1tr)
- ・1段目テラス面の礫敷き* (H20-4tr)

【前方部側】

- ・上段斜面の東側コーナーの基底石 (H29-5tr)
- ・中段斜面の基底石 (H29-3tr)
- ・2段目テラス面の埴輪列 (H29-4tr)

【周溝* (しゅうこう) 部】

- ・外周の立ち上がり (H27-1・2tr, H27-3tr, H28-2tr, H28-3tr)

(2) 今回の調査の目的

今年度は、後円部主軸ライン付近 (H30-1tr) と、墳丘くびれ部 (H30-2tr) の調査を行いました。その結果、H30-1tr で良好に残る葺石*や埴輪列等が発見されたため、H30-2tr の調査を中断し、H30-1tr を集中的に調査しました。

3 H30-1tr の調査成果

(1) 斜面の葺石

上段斜面と中段斜面、下段斜面で、一部石が抜け落ちているものの、良好に残る葺石を確認することができました。各斜面の傾斜はいずれも、裾から急角度で

立ち上がったのち、平坦面近くになるとやや緩い傾斜に変化しています。

上段斜面では、墳頂部との境(墳頂端部)の石を確認することができました。この部分の石が残っていることはめずらしく、古墳の築造方法を考える上で貴重な成果といえます。この部分の標高は約37.1mでした。

各斜面の葺石の大きさを比べてみると、上段の石が最も大きく、下段、中段の順に小さくなるのがわかりました。また、上段斜面の基底部では、特に大きな石材を縦に据え置き、基底石としているようすが確認できました。

- ・上段斜面 長さ(水平距離) 約20.2m、高さ 約9.8m
- ・中段斜面 長さ(水平距離) 約9.2m、高さ 約4.3m
- ・下段斜面(ただし検出長) 長さ(水平距離) 約1.4m、高さ 0.6m

(2) 段築(だんちく) テラス面

後円部の墳丘斜面には、裾から墳頂部までの間、途中2箇所にてテラス面(1段目テラス面・2段目テラス面)が設けられています。各テラス面とも、埴輪列の一部や礫敷きの一部が確認できました。

埴輪列は、底の部分がほぼ円形のままで残っていたり、立った状態で残っている部分があるものがありました。これらは、各テラス面で立て並べられた埴輪の元の位置がわかる貴重な成果といえます。なお、1段目テラス面の埴輪列に使用されていた埴輪は、周囲に散らばっていた破片から、丹後地方特有の円筒埴輪<丹後型円筒埴輪>が使用されていたと推測できます。

各テラス面の礫敷きの石は、木の根などの侵食により失われている部分もありましたが、ともに1～12cm程度の大きさの河原石が使用されていました。おそらく、各テラス面全体に敷かれていたと考えられます。

さらに、後円部のテラス面は、1段目と2段目で幅が異なることがわかりました。

- ・2段目テラス 標高 約28.2m、幅 約2.8m
- ・1段目テラス 標高 約24.0m、幅 約4.2m

(3) 墳頂部

調査前、墳頂縁辺部には土手状の土の高まりが全体にめぐっていましたが、調査の結果、この土の中には多くの埴輪片や墳頂部の礫敷きに使用されていた可能性のある小礫が多数混じっていたことから、後世になんらかの理由で作られた高まりと考えられます。

また、墳頂端部の葺石に沿って配置された埴輪列が

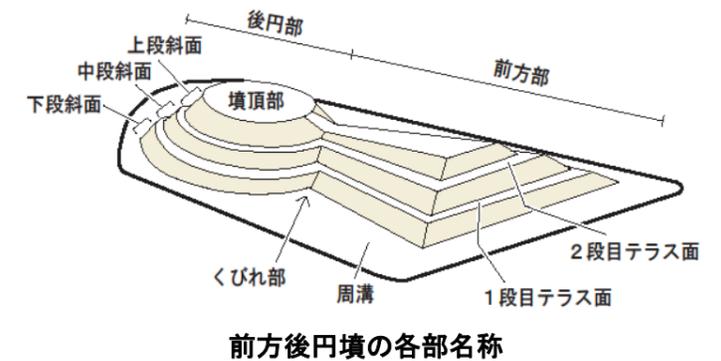
確認できました。この埴輪は、底の部分が円形のままで立って残っており、古墳築造当時の埴輪の位置を知ることのできる貴重な成果が得られました。

4 調査結果のまとめ

今回、後円部の2段目テラス面や上・中段斜面、墳頂部について、はじめて調査を行いました。その結果、以下のことが新たにわかりました。

- ・後円部墳頂縁辺部の埴輪列が確認できたこと
- ・上段斜面の墳頂端部の葺石や、裾部基底石を据え置いた状態が確認できたこと
- ・後円部2段目テラス面の標高が約28.2mであること、また、埴輪列と礫敷きがあること

なお、このように墳頂部まで良好に葺石が残っていること、特に墳頂端部の葺き終わりの石が確認できたことはめずらしく、とても貴重な事例といえます。これは、京丹後市の皆さんが、この古墳や郷土の文化財を大切に守ってきた証といえるのではないのでしょうか。



前方後円墳の各部名称

<語句の説明>

葺石(ふきいし): 古墳の墳丘斜面などに河原石などを積んだり貼り付けたりしたもの。古墳を立派に見せるとともに墳丘の土砂の流出を防ぐ目的があったと考えられています。

基底石(きていせき): 葺石の一番下に置かれる基礎となる石のこと。通常、葺石に使用する石のなかでも比較的大きなものを使用することが多い。

埴輪列(はにわれつ): 墳丘やそのまわりの平らになったところに埴輪を列にして並べたところ。

礫敷(れきじき): 墳丘の平坦面に石を敷くこと。葺石より小さな石を使用することが多い。

周溝(しゅうこう): 墳丘の周りにつくる堀のこと。